

## 明石市議会議員 井藤けいづい市政報告

## けいづいレポート



## ごあいさつ



このたびの西日本豪雨災害により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。そして被災された方々には心よりお見舞いを申し上げます。1日も早く復興できるよう願っております。

明石におきましては人丸町・東野町・朝霧町・朝霧東町など土砂災害が危惧されましたが、大きな被害を出することもなく、死者や重傷者を出さなかったことに安堵しております。

平素は井藤けいづいの議会活動・後援会活動にご理解とご支援をいただきありがとうございます。市議会議員として、平成 11 年 4 月に初当選以来、早や 20 年目を迎えることとなりました。今年度は 5 期目最後の年でもあり、「初心を大切に」の思いを心に、さらなる市政の発展に邁進いたします。

明石市は、平成 30 年 4 月 1 日に中核市に移行しました。これまで兵庫県が行っていた福祉、教育、保健、動物など、生活に密着した約 1900 件の事務事業が、明石市役所で行うこととなりました。それにより、これまでに比べ手続きの迅速化、効率化が図られています。これまで関わってきた福祉関係の仕事においても、この迅速化と効率化を身に染みて感じています。他にもあかし動物センター、あかし保健所が開設され、今後は明石児童相談所（仮称・明石こどもセンター）が 31 年 4 月に開設されます。このように明石市はめざましく発展してまいります。

平成 29 年 11 月に 2 日間にわたり開催された“**2017 西日本 B-1 グランプリ in 明石**”には約 17 万 3 千人の来場者があり、明石公園や明石駅に溢れた人の波はこれまで体感することのない光景でした。そして、平成 31 年 11 月に B-1 グランプリ全国大会の開催が決定し、約 40 万人の来場が予想されています。井藤けいづいはこの一連の流れを市制 100 周年・築城 400 周年事業に活かすことこそが必要であると考え、6 月議会では『市制施行 100 周年事業及び明石城築城 400 周年事業の取り組みについて』明石市から意欲的な答弁を引き出すべく質問しました。



また、市制施行 100 周年・明石城築城 400 周年記念事業は、過去と現在の足元を見極めながら、未来に続く事業・行事としなくてはなりません。明石の歴史を検証するには、今日の明石の繁栄の礎となる明石城初代城主の小笠原忠政公の存在が必要不可欠です。小笠原忠政公の検証を行うことで、新たな発見はもとより市民に明石の歴史を知っていただくよい機会として井藤けいづいは考えています。そこで、上ノ丸の明石市立文化博物館において明石城関連の資料を一堂に集めた回顧展を開催したいのですが、これを盛り上げるために小笠原忠政公の前任地である松本市、後任地である北九州市小倉より資料を借用しなくてはなりません。これらの取り組みを実現すべく井藤けいづいは明石市と共に奔走しているところです。

以下に 6 月 18 日議会における質疑答弁を中心に議員活動について紹介させていただきますのでご一読ください。



## 1 市制施行 100 周年事業及び明石城築城 400 周年事業の取り組みについて

### 質問 市制施行 100 周年の事業計画について

B-1 グランプリの成功にならい、100 周年事業に弾みがついています。そんな中、明石の強みや魅力を発信する取り組みとして、スポーツや文化関連の事業も必要であると考えています。平成 21 年 11 月に明石球場で開催された『ドリームベースボール』は名球会・プロ野球 OB により、野球教室・親善試合・講演会が行われ、球場が超満員となりました。この日は野球をする子ども達にとって夢のような 1 日でした。これを踏まえ以下の催しを事業メニューとして提案しました。

|                  |            |
|------------------|------------|
| 明石球場の活用          | ドリームベースボール |
| 大蔵海岸の活用          | ビーチスポーツ    |
| 明石公園に設置される能舞台の活用 | 地域の伝統芸能    |
|                  | 吹奏楽        |
|                  | オーケストラ     |



そこで、現時点における事業展開方針を質問しました。

### 答弁 記念事業部長



昨年 11 月の B-1 グランプリではオール明石で取り組みを進め、子どもから高齢者、障がい者の方も参加いただきみんなでつくる優しい大会として大きな成果を収めました。改めて、B-1 グランプリは単なるイベントではなく市民が街への関心を高め愛着を深めるツールであると確信し、100 周年の中心的な事業として取り組み、先般 2019 年に明石市での全国大会開催が決定しました。

また、明石が誇る獅子舞演武を始め地域の伝統文化や伝統芸能にもスポットを当て、地域の絆を次代へと継承していく取り組みも検討しています。他にも明石の宝物である“時”“海”“歴史”をテーマとした催しなど計画を進めているところです。

最後にご提案されたスポーツや文化関連の事業も必要であると考えています。もちろんドリームベースボールの実施も検討しています。また、能舞台の活用としては様々なジャンルにわたって市民自らが出演する場としての活用を考えています。



### 質問 周年事業をより効果的にするための現在の活動や事業計画の進捗状況について

100 周年事業を盛り上げるための明石市の現時点の活動状況について質問しました。

### 答弁 記念事業部長



現在 100 周年の PR 発信に力を入れて進めています。市民の皆様が事業への主体的な参加意識を持ってもらうことが大切です。そのため、高齢者大学・小学校・自治会などに出前講座を実施したり、明石の過去を振り返る写真展やパネル展を開催しています。また、ホームページや SNSなどを活用し、子どもから高齢者まで幅広い世代の方々に対して情報を発信していきます。



### 質問 明石城築城 400 周年に向けた取り組みについて

築城 400 周年事業に向けた市の取り組みや県との連携について質問しました。

## 答弁 記念事業部長

明石市としては兵庫県が主宰する『明石城築城400周年記念事業実行委員会』に事務局として参画し、兵庫県と情報共有を行っているところです。また、明石城をテーマとした市民向けの公開講座を実施しており、200人を超える参加者が熱心に耳を傾けておりました。明石城の歴史を振り返る事業について文化博物館等の活用を含め検討を進めているところです。



## 答弁 泉市長

100周年・400周年は歴史を感じる年であり、明石の町の良さがたくさんある中、歴史の重みというのは大変重要な感じています。明石は海の町・魚の町であるとも思いますし、先人たちが知恵を絞り“時の町としての明石”を発して頂いた経緯もあります。歴史の町であり海の町であり時の町である明石というのを市内外に発信していく100周年にしたいと強く思っています。そのためにはオール明石が必要であり行政だけではなく官・民の連携をはじめ地域の方とも連携し、ジャンルについても文化やスポーツといった目配りをしながらやっていきたい。また、国や県との連携もしっかりと行いつつ良い形で来年を迎えるべきだと思います。



## 答弁を受けて

明石市と泉市長から大変意欲的な答弁を頂きました。市長のリーダーシップの元、市・団体・市民が一丸となって周年事業の成功に向けて取り組みましょう。明石駅周辺だけで盛り上がるのではなく、西明石・大久保・二見の方までしっかりと連携を図れるよう調整が必要となってきます。市民全員が参加できる仕組みづくりや広報活動などまだまだ課題の多い周年事業ですが、残すところ1年を切った今こそスピードアップして一刻も早く形の見える内容へと繋げていかねばなりません。井藤けいづいは今後も周年事業の成功に尽力し、内外から様々な取り組みを行ってまいります。ご支援よろしくお願いします。

いよいよ来年や！  
みんなで盛り上げるで！



## 2 父子家庭への支援について

次に、ひとり親家庭の中でもあまり目立たない父子家庭について、必要とされる支援が行き届いているか明石市に質問しました。厚生労働省が実施したひとり親家庭の推計世帯数と明石市の推計世帯数は以下の通りです。

|      | 全国推計(H28年)    | 明石市推計(H30年) |
|------|---------------|-------------|
| 母子家庭 | 123.2万世帯(87%) | 2171世帯(96%) |
| 父子家庭 | 18.7万世帯(13%)  | 89世帯(4%)    |



子育ての上で、子どもが頼るところはお母さんなのです。しかし、その中で事情があって父子家庭になられ、一生懸命授かった子供を育て上げるという思いで生活されています。そんな中、父子世帯の就業率は母子家庭に比べ高く、母子家庭より収入も多いことから所得制限のある児童扶養手当の受給者は少ないため、市で把握している父子家庭数と実数に誤差が生じています。父子世帯の悩みとして子供の食事、栄養や衣服など身の回りの世話など母子家庭とは異なる支援が必要と考えます。そのため、児童扶養手当を受給されていない家庭は市の支援情報が届きにくい現状があることを踏まえ、経済的支援以外に父子家庭の特性に応じた幅広い支援が必要と考えます。

そこで、明石市の父子家庭に対する取り組みの現状と今後について質問しました。

## 答弁 こども総合支援部長

平成28年度ひとり親家庭等のアンケート調査において、現在の困りごとを聞いたところお金を選択した人が父母ともに最多となっています。父子家庭の特徴としては子育てと家事を選択した人の割合が高く、異性の子どもへの対応に不安がある等の声がありました。また、悩みを相談できる人が居ないと回答する割合も高く、このことから児童扶養手当のような経済的支援だけではなく、子育て・家事・相談支援等父子家庭の特性に応じた総合的な支援が必要と考えています。

取り組みとしては平成28年度より“ひとり親家庭総合相談会”を実施しています。参加の対象は手当の受給に関係なくすべてのひとり親を対象として広報誌やホームページで案内しています。本年度からは平日が忙しい方のために祝日も開催しています。

その他以下の取り組みを実施しています。

- ・ひとり親どうしの情報交換と親子の交流の場を提供する交流事業
- ・各種支援制度をまとめたサポートパンフレットの発行

また、今年度からは次の取り組みを実施しています。

- ・家庭訪問型の相談支援(仕事から帰宅された夜間等に定期的に訪問)
- ・児童扶養手当のまとめ支給改善に向けた毎月支給(希望者に限り)



現在検討中のものとしては父子家庭に対する調理や掃除などの家事援助を受けられる“ひとり親家庭日常生活支援事業”について取り組んでいます。

これらの情報が父子家庭に届きますよう、保育所や子育て支援関係機関への情報提供を行っており、今後はSNSなど父親が活用しやすいように工夫をしてまいります。

## 答弁 泉市長

大変重要な問題だと思っています。ポイントは一人ひとりの子供の顔が違うようにひとり親家庭というのも一つひとつ違うと思います。そういう意味では一般論として語るよりは一人ひとりのご家庭にしっかりと寄り添うような対応ではなかろうかと思っています。もちろん母子家庭と呼ばれる方々の中にも高収入のお母さんもおられます。父子家庭の中でも家事に長けたお父さんがおられます。それぞれ事情もおありで、お金の面でお困りなのか、子育てでお困りなのか、特に異性の場合は悩ましい問題も生じると思います。なので個々に応じて寄り添うような対応を明石市を挙げてやって参ります。



## 答弁を受けて

答弁された通り、父子家庭ならではの悩みにどれだけ寄り添えるかが重要となります。父子家庭には近隣にお爺ちゃんやお婆ちゃんが居られると良いのです。しかし、どうしても離れていて、本当に父子家庭だけで子どもを育てるというのは大変なことなのです。子どもは明石の宝であることから、すべての子どもに健全な育成環境を提供できるよう、市の出来ることを見出して積極的な支援が得られるよう、井藤けいすいは今後とも強く推進してまいります。

